

日本語教育研究会実施報告

日本語教育センター通信

第13号



2013年7月26日に第12回日本語教育研究会を開催しました。この研究会は2007年から年2回行われています。今回は2013年4月に日本語教育センター着任の嶋ちはる日本語常勤講師（EPA看護師の職場における言語社会化プロセス―病院における一年間のエスノグラフィ―をもとに）と、宮永愛子日本語常勤講師（「日本語学習者の口頭運用レベルと聞き手配慮要素の使用―OPIデータをもとに―」）の研究発表を行いました。



日本語常勤講師 嶋ちはる先生



日本語常勤講師 宮永愛子先生

嶋先生の研究は、EPA（経済連携協定）による看護師候補生が、病院での実践を通じ、どのように日本語や仕事を身につけているのかを明らかにすることが目的です。今回の発表では、看護師候補生と研修担当の日本人看護師や日本人同僚、患者とのやりとりやインタビューの分析から、職場における日本語教育支援についての提案がありました。

宮永先生の発表では、日本語の超級話者と上級話者の会話データの比較から、超級話者はより多様なフレーズを使用すること、言い換えなどで聞き手の理解に合わせ、表現を選ぶこと、「あー」「ねー」を用いることで聞き手の理解を確認しながら発話を組み立てていることが明らかになりました。

センター内の教育の質向上を目的とした研究会の場合はクロージングで行っていますが、研究発表や講演会は公開しています。公開する際は掲示板やHP等で案内しますので、関心のある方は、ぜひ参加してみてください。



日本語パートナー活動報告

【交換学生】
ムルフカ マルビナ マグダレナさん
（ポーランド ウッジ大学）

【日本語パートナー】
酒井 唯さん（人間福祉学部1年）
福田 奈美さん（文学部1年）



ムルフカ マルビナ マグダレナさん
（ポーランド ウッジ大学）

毎週昼ごはんを食べながら、先週あったことや、これからの予定について話しています。その後、日本語の勉強を手伝ってもらいます。今はまだ全部日本語で話すのは難しいので、日本語と英語で話しています。前より日本語で話すことが多くなりました。日本語パートナーが私の日本語を直してくれるので、日本語が上手になったと思います。



ベジク・パルニス

酒井 唯さん（人間福祉学部1年）



（右からムルフカさん、酒井さん、福田さん）

福田 奈美さん（文学部1年）

私は友達に誘われて日本語パートナーに参加しました。最初は緊張して上手く話せるの不安でしたが、交換学生と話すうちにだんだんと打ち解けてきて、今では冗談を交えながら会話が出来るくらい仲が深まりました。留学生と会うたびに、日本語が上手くなってるのがわかるので会話するのがとても楽しいです。これからもサポートをし、留学生の支えに少しでもなれたらと思います！

パートナーをして、本当によかったと思っています。なぜなら、こんな身近に国際交流ができ、たくさんの考え方に触れることができるからです。あまり知らなかったポーランドの国のことも、知ることができまし、自分の国のいいところを広めることができました。

日本語パートナーの仕事が終わったとしてもムルフカとの交流はなくなりませんし、これからも続いていけばいいなと思っています。

2014年度春学期日本語パートナー募集のお知らせ

【募集説明会】※初めて申し込む人は極力参加するようにしてください。

NUC：12/10（火）、12/18（水）

KSC：12/10（火）

時間：12:50～13:20

時間：10:35～11:05

場所：G-202

場所：I-105

【申込期間】

2014/1/6（月）～1/10（金）16:50まで

★ウェブ登録後、所定の申込用紙に記入のうえ、日本語教育センター事務室、またはKSC国際教育・協力センター事務室まで提出



日本語パートナー

<外国人留学生対象選択科目> 「ビジネス日本語C」授業報告

〈受講生 ラーニングアシスタントと担当の釜淵優子先生(前列左)〉



【受講生】
申 載勲さん(経済学部3年)
ビジネス日本語の講義は留学生に必修となつてはいる日本語講義とは違つて日本語力のアップを目指すというよりは、留学生の日本での就職を目指す講義です。私は日本での就職を希望して、以前ビジネス日本語AとBを受講して、今回ビジネス日本語Cを受講しています。担当の釜淵先生はとても優しく、また留学生のことをよくご存知で、就職活動の進め方や就職活動に関する疑問などを留学生の視点でわかりやすく説明してくださいました。ビジネス日本語Cは履歴書とエントリーシートの書き方の講義です。その中で就職活動の中で一番大事だとも言われている自己分析や業界・企業分析を行い、先生はもちろんクラスの留学生や日本人のボランティア学生たちとシェアしたり、ディスカッションをしたりします。それらを通じて自分に対する新たな気づきが生まれたり、他の人の話を聞いて刺激を受けたりして、就職活動に対して前向きな気持ちになりました。日本での

の就職を考えている留学生の方々にはぜひビジネス日本語を受講してみてくださいませ！
【ラーニング・アシスタント】
吉田 夏帆さん(国際学部3年)
釜淵先生のクラスでは、和気あいあいとした雰囲気の中で要点をクリティカルに押さえた授業が展開されています。具体的には、就活に向けて自己紹介やE.S作成、業界・企業研究等を行っています。受講している留学生たちの個性も様々で、授業を重ねるたび新たな気づきや価値観を得ることが出来ます。また、留学生たちは非常に意識が高い方が多いです。そのため私自身も彼らの「熱意」や「志」に刺激され、就活に向けてのモチベーションアップにつながる良い機会にもなっています。彼らの姿勢から学べることはたくさんあります。納得のいく就活ができるように、今後もみんなで明るく楽しく頑張っていきたいと思いま

<新設科目> 「日本語教育演習」授業報告

【担当】
宮永 愛子 日本語常勤講師

「日本語教育基礎演習」は、この秋学期からの新設科目で、「日本語教育基礎」を終えた学生を対象に、「日本語教育基礎」で学んだ日本語教育や外国語教授法等に関する基礎的な知識を生かして、実践的に日本語教育を学ぶという授業です。
授業では、教科書分析から文法の導入、口頭練習や応用練習など、一連の授業活動を紹介した後、学生が模擬授業を行い、受講者間でコメントしあうといったことを行っています。言語を教えるということの奥深さや興味深さについて、実際に教える経験をして初めて気づくことも少なくないと思います。「日本語教育基礎」で日本語教育に興味を持った学生は、今度は実際に教えることを体験してみませんか。

【受講生】
宮田 真帆さん(法学部3年)

授業では、日本語教育基礎で学んだ知識とプロの授業を参考に、毎回の授業の一部を考え、発表します。教える部分は、クラスメイト全員統一されていますが、個性が出て、誰が正しいという答えのないところが面白い点であり、難しい点でもあると思います。また、どの文法を教えるのかによって、使用できる教授法にも限界が出たり、反対に使用できるものが多すぎたりして、適切な判断がとて難しいです。そのような条件の中で日本語の文法や語彙を教えるだけでなく、何を一番伝えたいのかを考えることが習慣づけられました。私は、少し興味があるという理由で、この授業を履修しましたが、授業を通して、「日本語を教える」ことの楽しさに気づき、将来にも活かしたいと思うようになりました。



〈受講生と宮永愛子先生(右)〉

<交換留学生対象選択科目>

日本語学習コース「現代日本文化」 フィールドトリップ報告

交換留学生の「日本文化」のクラスでは、食文化を学んでいます。その一環として、11月16日に京都府フィールドトリップへ行きました。地下や錦天満宮、錦市場の見学、伏見稲荷大社の観光、そして和菓子作り体験をしました。職人さんの実演では簡単そうに見えても、自分で作ると意外に難しく、みんな苦戦していました。が、よい経験となったようです。

【交換生】

タンパケ ロニ アティティアさん

(インドネシア) サティア ワチャナ キリスト教大生

私ははじめて和菓子をつくりました。最初は私たちの手はあらわなければなりません。きつと、和菓子がとても新鮮だからです。あとで、和菓子の先生が説明しました。先生の説明はとてもはやいですが、あまりわかりませんでした。でも、だんだんわかりました。むずかしいですが、ほんとうにおもしろいです。私はきれいな和菓子をつくれるとおもいました。でも、ぜんぜんきれいな和菓子ではありません。いちばんむずかしいのはおみじです。おみじのかたちをつくることはおみじとむずかしかったです。こまりました。そのあと、私たちの和菓子たちへもつてかえりました。うちでホストファミリーにあげました。お父さんとお母さんは「おいしい！」って言いました。ほんとうにうれしかったです。



〈自分で作った和菓子を食べるタンパケ ロニ アティティアさん(右)〉

発行人 関西学院大学 日本語教育センター
発行日 2012年12月3日